

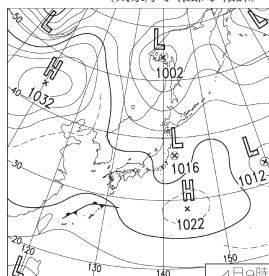
# 日々の天気図

— No. 109

2011年2月

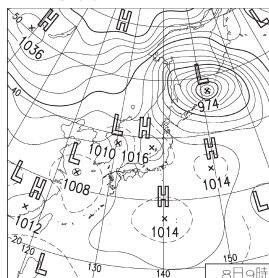
- 3日、先島諸島に活発な雨雲、沖縄県と那国空港で64.5 mm/1 h.
- 14日、本州南岸を低気圧が進み、広い範囲で雪や雨。本州都市部でも積雪。
- 25日、関東で春一番。東京で最高気温20.8℃。

(気象庁予報部予報課)



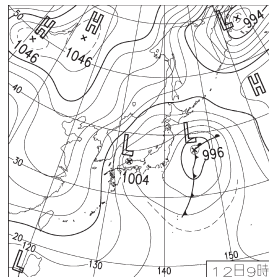
## 4日(金)暖かな立春

気圧の谷の影響を受けて雪や雨が降った北陸～東北日本海側を除き広く高気圧に覆われて晴れ。最高気温は3月並の暖かさ。津市や水戸市等でウメ開花。



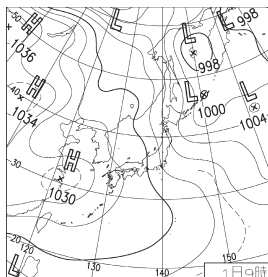
## 8日(火)西から下り坂

北日本の雪はおさまり、晴れの地域拡大。雲に覆われた関東は、最高気温が前日差-5～7℃。低気圧の接近で西日本は午後から雨。東海～関東も夜遅くから雨。甲府市でウメ開花。



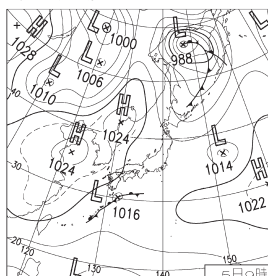
## 12日(土)西日本中心に大荒れ

西日本では山陰沖の寒冷低気圧の影響で強風と局地的な大雪。島根県浜田市大辻町で最大風速23.9 m/s、最大瞬間風速35.3 m/s、日降雪量は広島県北広島町八幡で59 cm。



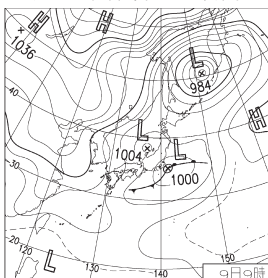
## 1日(火)冬型が緩む

冬型の気圧配置が次第にゆるむ。日本海側の降雪も弱まり、晴れ間が広がった所も。太平洋側の各地は晴れて最高気温も上昇。東京では3月中旬並の陽気。



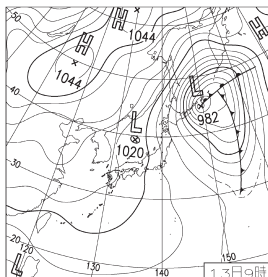
## 5日(土)沖縄～九州南部で雨

北日本を弱い気圧の谷が通り、日本海側で弱い雪。沖縄付近～九州南部は低気圧の影響で雨。鹿児島県南種子町上中では52.5 mm/1 hの非常に激しい雨。宮崎市でウメ開花。



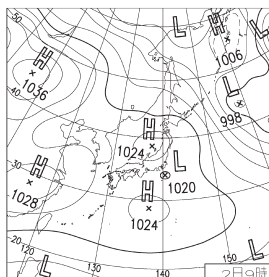
## 9日(水)広い範囲で雪や雨

本州南岸を通過した低気圧により太平洋側で雨または雪。東京で雪も。日本海を東に進む低気圧の影響で日本海側でも雪。西から天気は回復し、日中の気温はほぼ平年並。



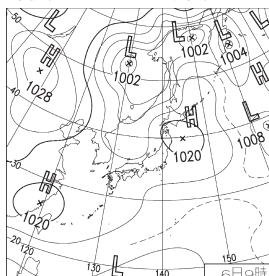
## 13日(日)冬の天気分布

冬型の気圧配置。山陰・北陸や北日本は雪やふぶき。西日本の暴風・強風はおさまる。連休最終日、太平洋側は広く晴れとなり、東海～関東は6日ぶりのスッキリした冬晴れ。



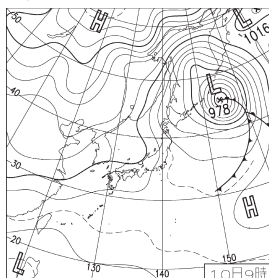
## 2日(水)移動性高気圧久し振り

日本付近は移動性高気圧に覆われ日中は概ね晴れたが、北海道日本海側、関東南部、九州西部及び南西諸島では曇り。先島諸島ではやや強い雨も。那覇市でヒカンザクラ満開。



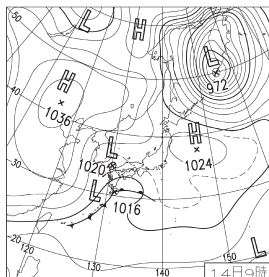
## 6日(日)春の気配は着実に

日本付近は高気圧に覆われ、概ね穏やかな晴れや曇り。北日本は明け方冷え込み寒さ厳しい。夜は、気圧の谷の通過の影響で東～北日本は雨や雪。



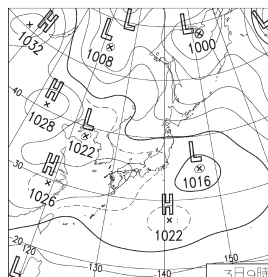
## 10日(木)天気 西から下り坂

東～北日本の日本海側では冬型の気圧配置で雪。西～東日本の太平洋側では晴れたが、夜、九州南海上で低気圧が発生し、西日本の太平洋側で雪や雨が降り出す。



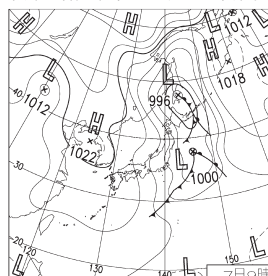
## 14日(月)南岸低気圧

低気圧が本州南岸に沿って進み、沖縄・奄美～東北にかけて広範囲で雪や雨。大阪3 cm、名古屋4 cm、東京2 cm等、本州の都市部でも積雪。佐賀市でウメ開花。



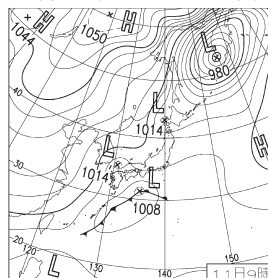
## 3日(木)陽気に誘われウメ開花

東北日本海側は雪や雨。九州～北海道は広く晴れて最高気温は3月並。先島諸島には活発な雨雲。沖縄県と那国空港で64.5 mm/1 h。山口県下関市や神戸市等4か所でウメ開花。



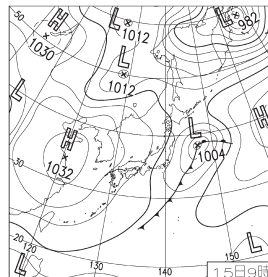
## 7日(月)北日本中心に強風

東海上の低気圧が発達し、日本付近は一時的に冬型の気圧配置へ。北日本を中心に風が強く、仙台で最大風速18.6 m/s、最大瞬間風速29.1 m/s。鹿児島県奄美市でヒカンザクラ満開。



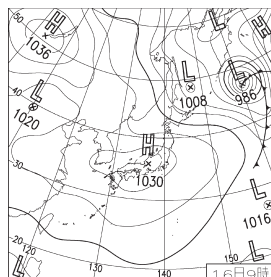
## 11日(金)太平洋側で雪

四国沖から北東進する南岸低気圧の影響で、四国から東北南部で雪や雨。平野部での最深積雪は、宇都宮7 cm、水戸4 cm。山陰沖の低気圧の影響で、山口県下関で降りようを観測。



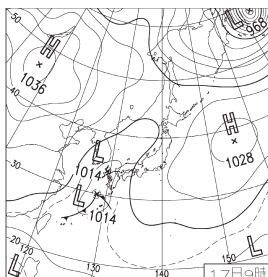
## 15日(火)南岸低気圧東海上へ

昨夜から関東に雪をもたらした低気圧は東海上へ、西日本から移動性高気圧に覆われ、北陸～北日本日本海側を除き概ね晴れ。関東でも昼前から日差し戻る。



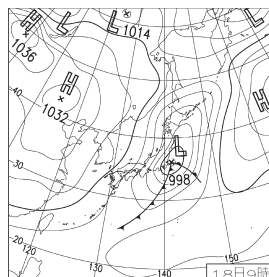
### 16日(水)全国的に晴れ

日本付近は、移動性高気圧に覆われ穏やかな天気となる。九州南部や東北～北海道の日本海側を除き、よく晴れた。鳥取市等でタンポポ花、埼玉県熊谷市でヒバリ初鳴。



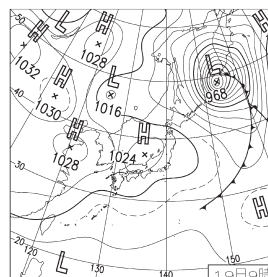
### 17日(木)西から強い雨

太平洋沿岸を北東進した発達中の低気圧に暖かく湿った空気が流入したため、西日本では午前中から、東日本では午後から太平洋側を中心に強い雨。気温は全国的に高く3月並。



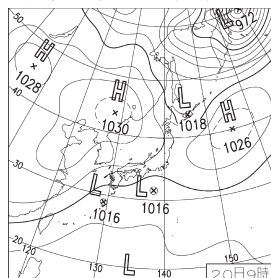
### 18日(金)雨のち冬型

低気圧が東海～関東の沿岸部を抜け三陸沖へ。その後冬型強まる。東日本太平洋側～東北南部は朝まで雨。東～北日本各地で強風となり、東京都三宅島坪田で最大風速23.6 m/s。



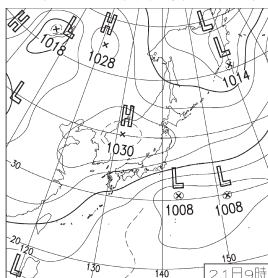
### 19日(土)穏やかな「雨水」

移動性高気圧に覆われ、西日本～東北は穏やかな晴れ。高気圧がやや北に偏ったため、関東南部では雲が多く、南西諸島では雨も。北海道は寒気の影響で日本海側で雪。



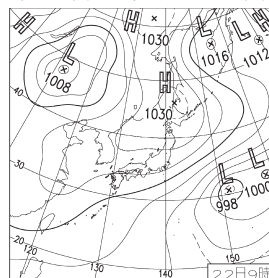
### 20日(日)本州南岸 雲広がる

北海道を低気圧が通過後、寒気が滞留したため、北海道の日本海側で雪。本州南海上の低気圧の影響により太平洋側で雲広がる。日本海側では高気圧に覆われ晴れ間が広がる。



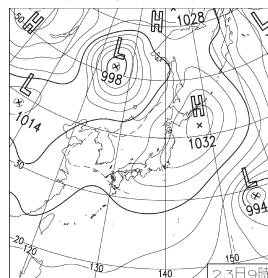
### 21日(月)日本列島穏やかな晴天

日本付近は移動性高気圧に覆われて広範囲で晴れ。高気圧がやや北に偏ったため、湿った空気の流入で南関東や南西諸島では、雲が広がり雨の所も。



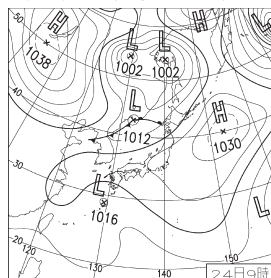
### 22日(火)日本列島に帯状高気圧

帯状高気圧に覆われた列島は南西諸島～北海道まで穏やかな晴天。最高気温は全国的に高く3月～4月上旬並。岡山市等で平年より1カ月以上遅くツバキ開花。



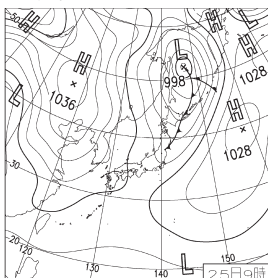
### 23日(水)南から湿った空気流入

東～北日本は日中概ね晴れ。高気圧の縁辺となった西日本は午後から雲が広がり、太平洋側の所々で強い雨。最高気温は引き続き全国的に高く、北陸では3月下旬～4月中旬並。



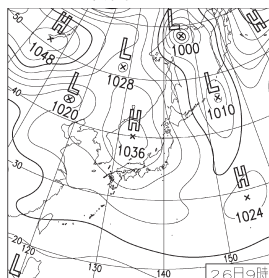
### 24日(木)太平洋側の所々で雨

三陸沖に中心を持つ高気圧からの湿った空気の流入により西～東日本の太平洋側の所々で雨。北海道は前線の影響で一時的雨。その他は曇りや晴れ。宮崎市でモンシロチョウ初見。



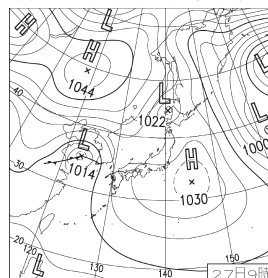
### 25日(金)関東で春一番

サハリン付近の低気圧からのびる前線に南寄りの強い風が吹き込み、関東で春一番。東京 最高気温20.8℃。本州太平洋側は軒並み4～5月並の暖かさ。



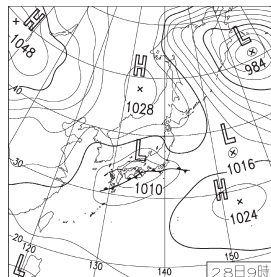
### 26日(土)北日本に寒気流入

一時的に冬型となり北陸～北日本の日本海側で雪。その他の地方では、高気圧に覆われて概ね晴れ。南西諸島は高気圧縁辺の湿った空気の流入で雨の所も。



### 27日(日)西から雨の地域広がる

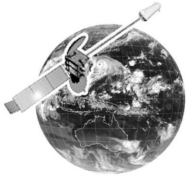
西日本～東北は日中太平洋側中心に晴れて気温上昇。温かく湿った空気が流れ込み西日本は午後から雨。北陸・東海も夜には雨。上空に寒気の入った北海道は雪。



### 28日(月)関東は冷たい雨・雪

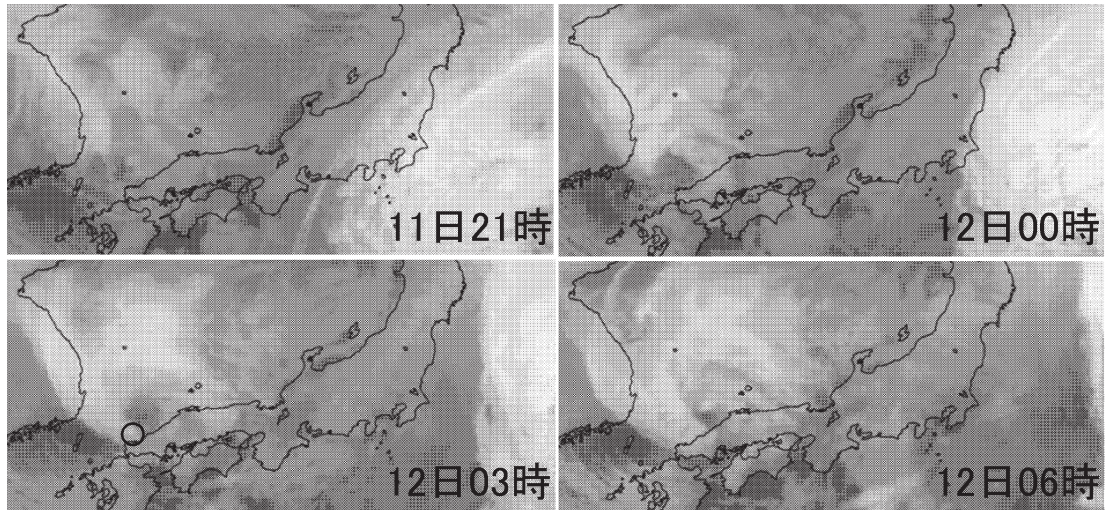
低気圧が本州付近を通過。九州～東北南部で雨や雪。静岡県御前崎で日降水量160 mm。沖縄・九州南部は4～5月並の陽気。東京の15時の気温は2.6℃、前日と比べ15.8℃低下。





## 今月のひまわり画像—2011年2月

### 山陰沖で急発達したポーラーロウ

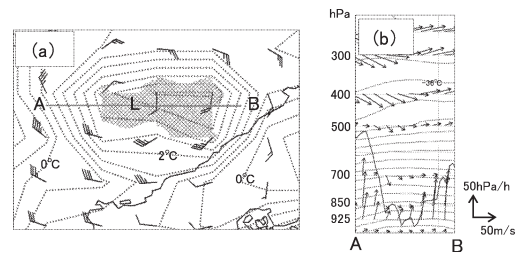


第1図 2011年2月11日21時～12日06時（日本時間）の3時間毎の赤外画像（12日03時の図の○印の中心は山口県萩市の見島北灯台を示す）。

第1図は2月11日21時～12日06時（日本時間）の3時間毎の赤外画像で、山陰沖ではポーラーロウが中上層のトラフの接近に伴い急発達しながら東南東に進み、山口県などに強風・積雪害をもたらした。ポーラーロウは傾圧性が弱いときには明瞭な眼とスパイラルバンドを、強いときにはコンマ雲を伴ったパターンに発達する傾向があると言われているが、本事例は前者に該当し、12日明け方は中心を取り巻くスパイラル状の雲バンドが明瞭となり、台風の眼のように中心付近には発達した対流雲が見られない状況となった。

局地天気図（図略）によると、このポーラーロウの発達は12日03時頃がピークであった。同日、西日本のアメダスでは2月の最大風速の極値を更新した観測所が多かったが、山口県萩市の見島北灯台では02時55分に平均風速39 m/sの西風を観測し、気圧は前6時間で9 hPa下降していた。

このポーラーロウは対馬海峡付近にあった11日午前から擾乱の中心付近の下層に暖気核が形成されており、12日の上陸点に近い地上観測データを見ると、周辺に比較して高温低湿となっていた。気象庁メソ数値



第2図 (a) 12日03時のMSM（初期値：同時刻）による山陰沖付近の975 hPa面の等温線（0.5°C毎、ハッチ域：3°C以上）及び風（単位：kt（1 kt=0.51 m/s））。(b) (a)図のA-Bに沿った東西鉛直断面における雲頂高度（太線、 $T_{BB}$ による）、等温線（3°C毎）。ベクトルは鉛直面内の対流を示す。

予報モデル（MSM）では11日夜遅くから12日明け方にかけて擾乱の中心付近の中上層に顕著な下降流が計算されており（第2図）、暖気核はこの下降流に伴う断熱昇温により一層明瞭になったと推察される。

（福岡管区気象台技術部予報課 木下 仁）